

ポスドク研究者、大学院博士後期課程学生等国際学会派遣プログラム	
The Transition to Adulthood Among Japanese Youth: Longitudinal Qualitative Research in Tokyo and Rural Area in Japan	
氏名 郭 麗娟	所属 基幹研究院研究員
期間	2018 年 7 月 15 日～2018 年 7 月 21 日
学会・分科会名	IXI ISA WORLD CONGRESS OF SOCIOLOGY RC34 Sociology of Youth
場所	メトロ トロント コンベンションセンター、トロント、カナダ
発表者名、 発表形式	Li Juan GUO, 口頭発表

内容報告

1. 学会・分科会の概要

1.1 学会について

国際社会学会（International Sociological Association, ISA）は社会学のグローバルな学会組織として最大規模のものである。世界社会学会議（World Congress of Sociology, WCS）とは、ISA が主催する研究報告大会であり、社会学界の最大の学術イベントである。4 年に 1 回開催される。2014 年に横浜市で世界社会学会議が開催された。参加者は 5000 人を超え、のべセッション数は約 800、総報告数は 2800 と推定される。初日（日曜日）夕方に開会式、月曜日から土曜日まで 6 日間セッションが続く。

世界社会学会議では、日本社会学会大会のような自由報告部会ではなく、各 RC が Session をあらかじめ立てて、Session ごとに報告を募集します。1 Session は 110 分程度で、その中に 5～6 本程度の報告が入ります。各報告は通常 15 分程度である。

1.2 分科会について

報告者が参加したセッションは RC34 Sociology of Youth という部会が開催する 27 のセッションの一つで、「Longitudinal Views on Youth Transitions. Reflections on the Social Construction of Youth: Power, Justice, Social Reproduction and Violence」をテーマとしていた。報告者を入れて 5 名が発表を行い、セッションのオーガナイザーとフロアから参加者を交えて質疑応答が行われた。

他 4 名の報告者からは、アルゼンチンの若者の教育から労働への移行、旧ソビエト連邦時代の最後の世代、高齢者世代と若者世代の人生軌跡における比較、オーストラリアの 2 つの異なる若者世代間にみられる不平等のパターンと移行、メキシコ都市部に居住する貧困層若者の大人への移行過程について、それぞれ質的、量的データをもとに興味深い発表が行われた。

2. 報告の内容

2.1 博士論文について

報告者は平成 29 年度お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻に提出し

た博士論文では、4 年制大学卒業以上の学歴をもつ日本人独身女性に限定し、彼女たちのポスト青年期の経験を当事者の意味世界から探ることを課題とした。分析資料は、島根県及び首都圏に在住する 20-30 歳代の女性 31 名(島根県出身・島根県在住者 12 名/首都圏出身・首都圏在住者 11 名/地方出身・首都圏在住者 8 名)を対象とする反復的な半構造化インタビューにより得た。

2.2 報告の内容

博士論文の一部の内容、すなわち、①高学歴独身女性たちはどのような職業キャリアを経験し、将来どのような結婚意識を持っているのか、②職業キャリアと結婚の関係についてどのように意味づけているのか、③親子関係は彼女たちの職業キャリアと結婚意識にどのような影響を与えているのかに限定し、報告を行った。

2.3 報告から得られた成果

第 1 に、初職への移行やその後の職業キャリアの展開については、3 グループ間には明らかな違いがみられ、その違いをもたらしたのは個人の主体的な選択以外、居住地域の経済状況や家族との関係性によるものも明らかになった。また、対象者の多くは「結婚したい」という画一的な志向性もみられた。

第 2 に、仕事を通して高収入や高い地位を獲得できた者は、結婚相手として選ばれにくいことに気付き、葛藤する心情がみられる一方、長期的に不安定・低収入の職業を継続している者は、恋愛・結婚に自信を持てず、将来に不安を抱いていることが分かった。彼女たちは独身生活の自由を享受している同時に、日本社会では結婚をもって一人前と見なされる規範から距離を置けないため、葛藤している姿が明らかになった。

第 3 に、親子関係は彼女たちの職業キャリアや結婚意識に与えている影響も分かった。

2.4 報告以外のセッションへの参加

報告以外、報告者は Making Connections, Bridging Generations というセッションにも参加した。このセッションでは、12 人の若手博士課程の学生たちが、オーガナイザー 1 人、ベテランの研究者 1 人を囲んで、研究者になるための経験や心構えを教えてもらった。具体的には、投稿論文のアドバイス、就職活動の経験、ワーク・ライフ・バランス、本の出版などについて、意見交換をした。このセッションに参加し、国際的な視野から、博士課程修了後の研究方向や書籍の出版について貴重なアドバイスをもらった。

3. 今後の予定

博士論文を読み直して、出版する予定である。

参考文献

- Iwagami, Mami. (2010) Mikonkino chokikato wakamonoziritu. *Wakamono to yano shakaigaku*, Tokyo, Seikyusya, 7-21.
- Iwai, Hachiro. (2013) Nihon-gata raifukosu no henyo to kazokushugi: suryoteki seikatsushideta no bunseiki kara, Changes in the Post-war Patterns of Japanese Life Course and Their Impacts on Familialism: An Analysis of Quantitative Life History Data).”Pp. in *Shinmitsu-ken to kokyo-ken no saihensei: Reconfiguration of the Intimate and Public Spheres*, edited by Ochiai Emiko. Kyoto: Kyoto University Press, 127-153.
- Jones, G. and Wallace, C., 1992, *Youth, Family And Citizenship, Buckingham*: Open University Press.
- Kukimoto, Shigo. 2009. “Wakamonono otonahenoikoutohataraku toiukoto”. Pp.202-227 in *Wakamonono*

hatarakikata—gennsyo hatarakutoiukoto No6, edited by Koshugi Reiko. Tokyo: Mineruva Syobo.

かく れいけん／お茶の水女子大学基幹研究院研究員

- ・ The Transition to Adulthood Among Japanese Youths: Longitudinal Qualitative Research in Tokyo and Rural Area in Japan
- ・ Lijuan GUO

本研究は「グローバル女性リーダー育成カリキュラムに基づく教育実践と新たな女性リーダーシップ論の発信」プロジェクト「ポスドク研究者、大学院博士後期課程学生等国際学会派遣プログラム」の助成を受けた。